
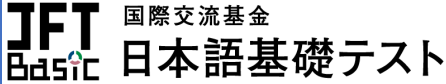


外務省関係資料

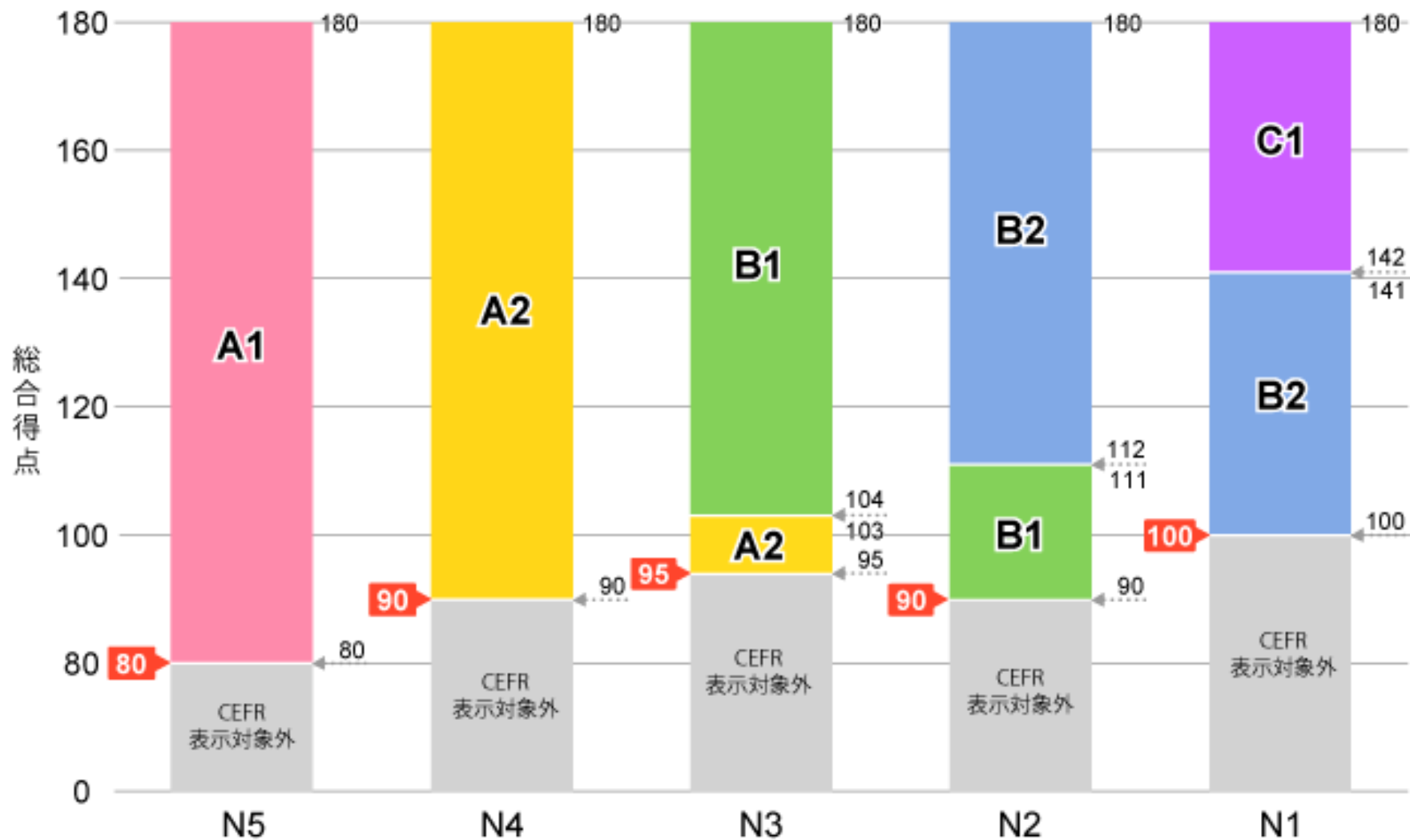
<資料内訳>

- 日本語能力試験 (JLPT) と国際交流基金日本語基礎テスト (JFT-Basic) の対照表
- (参考) JLPTの各レベルにおけるヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) 参考表示図

日本語能力試験(JLPT)と国際交流基金日本語基礎テスト(JFT-Basic)の対照表

	 日本語能力試験 JLPT Japanese Language Proficiency Test	 国際交流基金 JFT Basic 日本語基礎テスト
テスト開始	1984年	2019年 (特定技能制度において日本語能力を測る試験として開始)
試験レベル	N1～N5	A2 (N4相当) (6段階ある欧州言語共通参照枠で下から2番目の初級者レベル)
	特定技能1号の申請要件：日本語能力A2相当以上の試験 (JFT-Basic 又は JLPT N4以上の合格)	
テスト形式	ペーパーテスト (PBT)	コンピューターテスト (CBT)
試験回数	年2回 (7月・12月)	毎月
年間申込者数 (2025年度)	年間：約194万人 7月：約90.4万人(国内35.2万人, 海外55.3万人) 12月：約103.7万人(国内44.7万人, 海外58.9万人)	年間：約21.7万人 (国内約1.1万人、海外：約20.6万人)
1ヶ月の申込者数平均 (日本語基礎テストのみ)	—	1ヶ月：約1.8万人 (国内:約1千人、海外:約17千人)
海外の実施地域	91か国・地域 273都市 (2025年度)	13か国(※) 27都市 (2026年3月現在) (※)特定技能に関する二国間取り決め(MOC)署名国 (下線部は試験実施国)： <u>インド</u> 、 <u>インドネシア</u> 、 <u>カンボジア</u> 、 <u>スリランカ</u> 、 <u>タイ</u> 、 <u>ネパール</u> 、 <u>バキスタン</u> 、 <u>バングラデシュ</u> 、 <u>フィリピン</u> 、 <u>ベトナム</u> 、 <u>マレーシア</u> 、 <u>ミャンマー</u> 、 <u>モンゴル</u> 、 <u>ラオス</u> 、 <u>ウズベキスタン</u> 、 <u>キルギス</u> 、 <u>タジキスタン</u>
結果判定までの時間	約2か月 (オンラインで通知)	受験終了時 (コンピューター画面にて表示)

(参考) JLPTの各レベルにおけるCEFR参考表示図



数字は JLPT 各レベルの合格点を示す。